

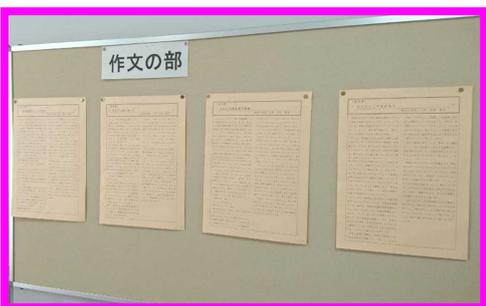
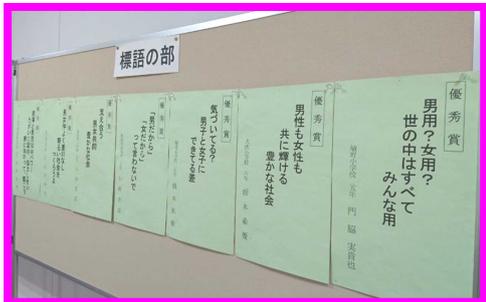
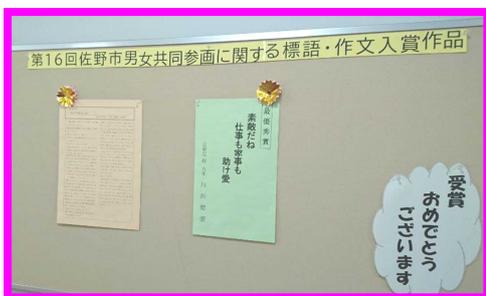
第16回佐野市男女共同参画に関する 標語・作文表彰

次世代を担う子どもたちに男女共同参画について理解を深めてもらうため、市内小学校、義務教育学校の5・6年生を対象に男女共同参画に関する標語・作文の募集を毎年行っています。16回目を迎える今回は、市内から標語、作文を合わせて96作品の応募があり、選考の結果、標語と作文各々で最優秀賞を1作品、優秀賞作品を7作品、合計16作品を決定しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった表彰式の代わりに、令和3年3月2日から3月8日まで市役所市民活動スペースで、最優秀賞と優秀賞に選ばれた作品を展示した「標語・作文展」を行いました。作品を見た市民からは、「小学生の作品とは思えないほど、よく考えてられている。」「すごい。」「といった感想をいただきました。

受賞された、皆さんおめでとうございます。

応募いただいた標語と作文を「第16回佐野市男女共同参画に関する標語・作文作品集」として冊子にまとめました。作品集は、男女共同参画推進センター（パレットプラザさの）や市内の地区公民館等でご覧になれます。
ぜひ皆さんの優れた作品をお読みください。



「第16回佐野市男女共同参画に関する標語・作文展」の様子

☆ 最優秀賞作品 ☆

標語の部

素敵だね 仕事も家事も 助け愛

吾妻小六年 川田 健惺さん
かわた けんせい

作文の部

当たり前のこと

栃本小六年 高瀬 日菜乃さん
たかせ ひなの

「男女共同って何だろう」と思い、母に聞いてみました。すると、

「男とか女とか関係なく同じ人間として接することだよ。」

と教えてくれました。私は、

「それなら、私は男女差別をしていないから大丈夫。」

と言いました。そうしたら母が

「本当に大丈夫かな。じゃあ、赤ちゃんが生まれたらお母さんが仕事を休んで面倒をみると思っけないかな。」

と聞かれました。私は、「確かにそうだな」と思いました。赤ちゃんが生まれたら、お母さんが仕事を辞めたり休んだりして、面倒を見てくれるものだと思っていました。母は、

「お母さんがお休みしたり、辞めたりすることは悪いことじゃないんだよ。ただそれが当たり前で、みんながそうするべきと思っことは間違っっているんだよ。」

と教えてくれました。私が産まれたときは、父がお休みをとって病院に何

日も泊まり、面倒をみてくれた話を聞いたことがありました。でも、その後は私が幼稚園に入るまでは母が仕事をしないで家にいてくれました。それが普通だと思っていましたが、産まれてすぐに保育園に行く子たちやお父さんが仕事を辞めて育児をし、お母さんが仕事を続ける家庭もあることを知りました。私は、

「それってちょっと変、。。。」

と思っず言ってしまいました。すると母が、

「それが偏見なんだよ。」

と教えてくれました。自分や、自分の周りの多くの人が同じことをしているから、それが正しくて、自分と違っことをしている人が変だと思っ気持ちが間違っていたんだと考えました。すると、私はハッと思いました。今まで普通と思ってきたことの中に間違っがあつたのではないかと思ったからです。そして、「変なの」と思ったことの中に、当たり前のことがあつたのかもしれないからです。

私は、そのことを色々考えてみました。社長さんは男性が多い。ご飯の用意をするのはお母さん。大工さんは男性で、保育士さんは女性。私の中の「当たり前」がたくさん見っかかりました。それを母に話すと、

「その、『当たり前』ではないと思っれている人たちは、とても悲しい思いをしていたかもしれないね。」

と話していました。

世の中の多くの人が考える「当たり前」を少ない人数だからといって、おかしいと思える気持ちがある。一生けんめい頑張っている人の足を引っ張っているんだと思っました。みんなが、自分と違っても、今までと違っても、そういう生き方ややり方があるんだと思っ気持ちが大切なんだと思っました。私は、これからは広い見方をもって生きていきたいと思っました。